

初めての本

mono0519

「河を歩いた夏」

たしかあれはまだ僕が小学校4，5年生の時だっただろうか。

きっかけはよくあるもので、同級生の図書委員に「図書委員会企画の読書週間なので、何か本を借りて読んでください！ただし、字がたくさんの本ですよ！」と先生の後ろ盾のもと呼び掛けられたことだった。半ば強制的に図書室で本を探すことになったのだが、当時の僕は漫画しか興味がなく、小説に触れたことがなかったので、図書室のカウンターの前で困り果ててたのを今でも覚えている。友人たちが次々に薄く挿絵も多めな本を見つけ出して借りていく中、少し焦り気味だった僕はふとカウンターの前に置かれていた新書コーナーに目がいった。

「河を歩いた夏」

ほとんど直感でその本を手に取り、パラパラとページを捲った。当時の僕にしてみればかなりの分量の文字数で、すこし気がひける思いだったが「せっかくだから少し頑張ってみよう」と思うことができ、そのままカウンターで本を借りることにした。

その後のことは記憶が曖昧で、すぐに読んだのか、または後日読んだのか、はっきり思い出せないのだが、放課後の閑散とした図書室で、西日の挿し込む中、一人隅っこに座り黙々と読んだことは覚えている。

物語の主人公と年齢が近かったこともあり、まるで自分も主人公と一緒に川沿いを歩いているかのような錯覚に陥った。気づけば下校時間で、そのときは洗面器に張った水から顔をあげたような、本から顔を引き剥がすかのような、言い知れない感覚を感じていた。そのぐらい本の世界に引き込まれていたのだった。そして人生にして初めて物語を読む面白さ、そして感動にすこしばかり興奮していたことを鮮明に思い出することができる。それからその本を読み終わり次第、すぐに僕は別の本を借りに図書室へ訪れるようになったのだ。

こうして僕の読書歴は始まったのである。

あなたの初めての本、久しぶりに思い出してみるのはいかがだろうか？